

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	総務文教常任委員会		会議場所 第3委員会室 担当職員 阿久根由美子
日 時	平成26年8月28日(木曜日)	開 議 午前 10 時 00 分 閉 議 午前 11 時 16 分	
出席委員	吉田 中村 並河 山本 田中 石野 木曾 堤		
執行機関出席者	(総務部) 門部長、田中安心安全まちづくり課長 (教育部) 木曾部長、河原教育総務課長、林教育総務課副課長、樋口社会教育課長、岡田社会教育課放課後児童係長		
事務局出席者	藤村局長、山内次長、阿久根副課長		
傍聴	可	市民 3名	報道関係者 0名 議員 0名

## 会 議 の 概 要

10:00

### 1 開議

〔吉田委員長 開議〕

### 2 日程説明

〔事務局次長 日程説明〕

### 3 案件

10:02

#### ○行政報告

〔教育部 入室〕

・放課後児童会について

<教育部長>

放課後児童会について、6月17日総務文教常任委員会で9月定例会に条例提案すると言っていた。アンケート調査結果や現状から勘案した児童1人当たりの施設面積や1クラブの人数について国基準がクリアできないところがある。基準を満たすためには定員制を設けることが考えられるが、そうなると趣旨から外れるので、条例に経過措置を設けることで検討したい。もう少し市民の声も聞いて段階的スケジュールを示し、12月定例会で提案したいと考えている。当委員会からの要望事項は出来る限り現行の運用の範囲で進める。新市立幼稚園が完成し、9月1日から新園舎で園児が生活する。9月23日に竣工式を行う。

〔社会教育課長 資料により説明〕

10:34

〔質疑〕

<並河委員>

値上げを含めた改正を検討するとの説明があった。新たな値上げなのか。

<社会教育課長>

拡充すると開設日数、時間が延びる。その増加分について検討する。

<吉田委員長>

夏休みの利用は盆休みで日数が少なく、日数の割に負担が合わないと聞く。日割りの検討はできないのか。

アンケート調査の感想は。良かったと思っているか。

< 社会教育課長 >

検討はするが、個人ごとの日割り計算は事務が煩雑で厳しい。

保護者の生の声を聞く機会となった。意見を生かしていきたいと思う。ニーズのクリアは難しいが、実施の上で参考になった。先に実施された福祉関係での調査より具体的に生の声が確認でき、よかったと思う。

< 木曾委員 >

わがまちトークで、放課後児童会の意見が届きにくいとの指摘があった。P15、苦情対応に盛り込まれているのか。例えば連絡会を設置するなどの充実を考えているのか。仮に教育委員会に窓口を設置するなら一々出向かないといけない。考えは。

< 社会教育課長 >

窓口設置だけでは声が届きにくい。苦情、要望を聞く窓口を広く設け、声が届くよう整理したい。

< 木曾委員 >

利用者が教育委員会に出向いて要望等をするのは難しい。指導員などに相談し協議会に意見をあげていくようなシステムを作らないといけない。相談しやすいよう検討願う。

< 社会教育課長 >

承知した。

< 中村副委員長 >

アンケート調査結果に保護者の思いが表れている。今後の5年ごと学校別児童数の推移は把握しているのか。

< 社会教育課長 >

把握している。安詳小は夕日ヶ丘住宅により児童数が増える傾向で、普通教室が足りなくなる。文部科学省は余裕教室の使用を指導されている。放課後児童会が普通教室を使うと余裕があるとみなされ、普通教室増築の際、補助率が下がる可能性がある。それも踏まえ検討する。以前していたように東部児童館を借りることも視野に入れている。徒歩の移動による安全対策等も含め今後検討していく。公民館等の借用も考えている。

< 並河委員 >

職員は他校との交流や研修等を希望されていた。P13、職員の知識及び技能の向上等で整理されているのか。

< 社会教育課長 >

問題が起きたとき即座に対応できるよう指導員、指導員補助のスキルアップも必要で、研修、情報交換の機会を増やしたいと考えている。今年度も研修を予定している。

< 吉田委員長 >

指導員は有資格になるまで指導員補助として経験を積まれる。わがまちトークで児童会利用者に指導員補助になるよう協力願った。自分の子が通う学校の児童会の指導員補助になることは可能か。

< 社会教育課長 >

可能である。

< 木曾委員 >

全国の事例ではNPO法人の実施もあるのか。指導員確保は教育委員会だけの対応では難しい。

< 社会教育課長 >

事例はある。学習塾などがやっている。民間事業者の協力をできれば得ていきたい。夢ビジョンシンボルプロジェクトとして子どもの居場所づくりに篠町で取り組んでもらっており、それが広がればありがたい。取り組みが広がる土壌づくりも将来検討したい。

< 吉田委員長 >

指導員補助に手を挙げたが、難しかった人もいる。確認願う。行政だけでなく民間事業者や保護者の勤務する会社にも頑張ってもらいたいと思っている。アンケート結果をもとに市民サービスの向上に努めてもらいたい。

10 : 56

〔総務部入室〕

・ インターナショナルセーフスクール推進事業について

〔総務部長あいさつ〕

〔安全安心まちづくり課長 資料により説明〕

11 : 04

< 木曾委員 >

事業実施により教員の負担が増えていないか。

< 安全安心まちづくり課長 >

導入当初は戸惑いもあった。今は楽しみながら児童と取り組んでいる。保育所は数年前から乳幼児の安全対策に取り組んできていたので過重になったことはない。

< 吉田委員長 >

効果が記載されているが、分からない。具体的な事例を添えてもらいたい。

< 総務部長 >

客観的な効果が分かりにくいと審査会の関係者からも聞いている。数値的效果の計測等を検討したい。

〔総務部、教育部退室〕

11 : 07

〔休憩〕

11 : 15

< 吉田委員長 >

次回委員会の日程を調整したい。9月定例会の審査日程はどうか。

< 事務局次長 >

9月22日が常任委員会、24日から決算分科会である。

< 吉田委員長 >

従来から定例会中の月例委員会はないのか。

< 事務局次長 >

していない。

< 吉田委員長 >

月例委員会は10月に行う。9月定例会中の委員会で日程調整をする。

散会 11:16